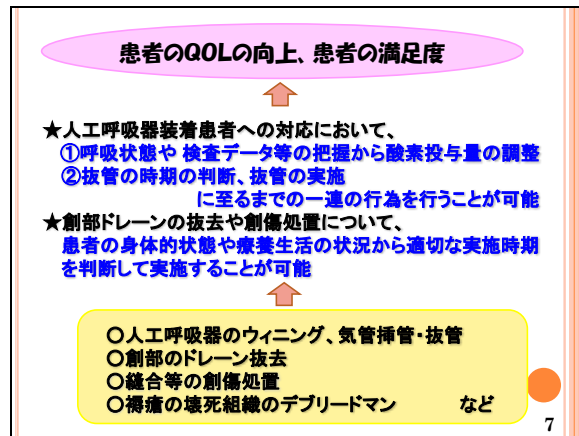
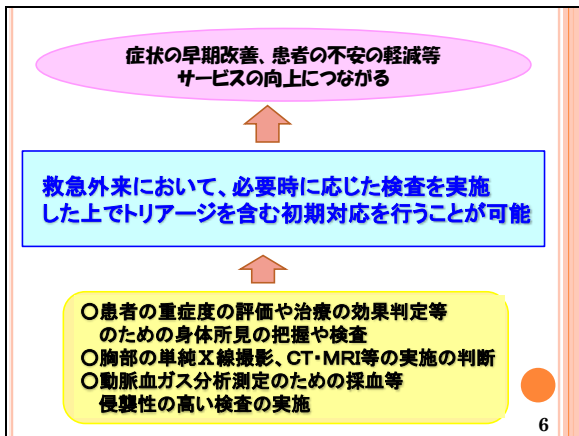


ヒアリングの主な内容と御議論について

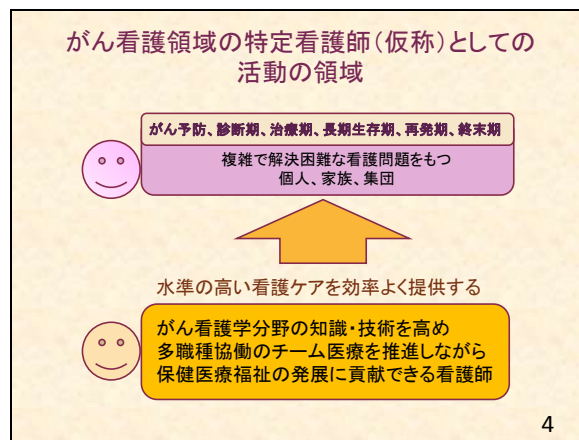
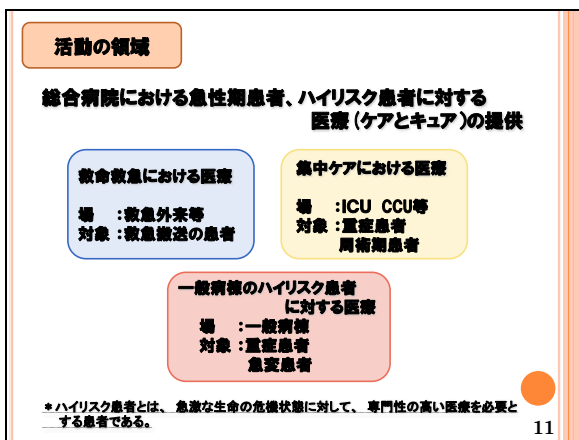
【特定看護師（仮称）養成調査試行事業】

1. 活躍の場面、期待される役割

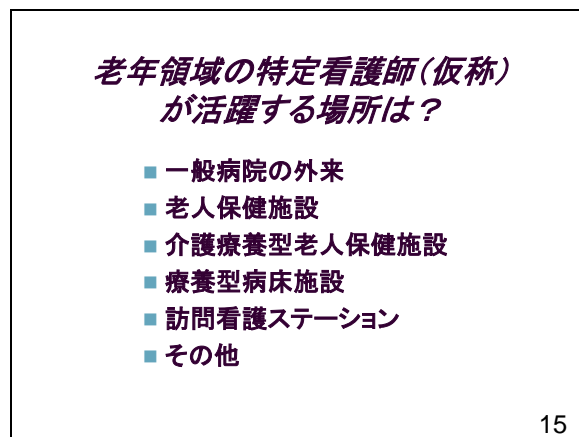
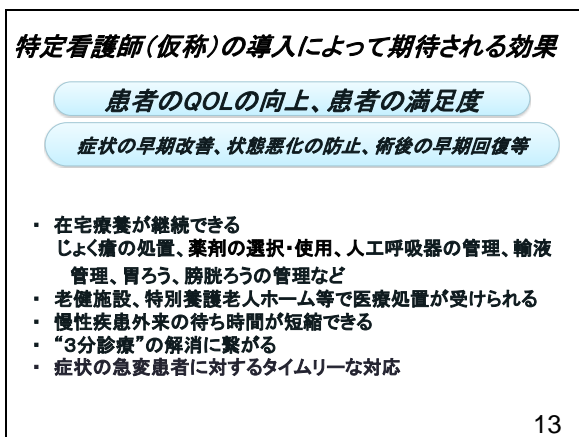
（東京医療保健大学大学院資料）



（大阪府立大学大学院資料）



（大分県立看護科学大学大学院資料）



(兵庫県立大学大学院資料)

どのような場で活躍する
特定看護師(仮称)を考えているか①

- ◆ がんをもつ子どもへの症状コントロールに向けた生活指導と薬剤投与
 - 1) 痛み緩和のための薬剤投与
 - 2) 化学療法・放射線療法・骨髄移植中の有害事象管理と応急処置
- ◆ 外科系の手術を受ける子どもへの痛み緩和を含めた症状コントロールに向けた生活指導と薬剤投与
- ◆ 在宅治療を継続している慢性疾患をもつ子どもの症状コントロールに向けた生活指導と病状説明、親から子どもへの医療的ケアの移行の判断とその指導
- ◆ 小児救急外来におけるトリアージ

5

どのような場で活躍する
特定看護師(仮称)を考えているか②

- ◆ 総合病院における子どもの痛みコントロールを含めた統合的アセスメントから必要な薬剤の使用やケアを提供し、子ども家族の生活調整、回復力の促進
- ◆ 訪問看護における子どもの症状マネジメントと必要な薬剤の使用や生活指導
- ◆ 救急外来におけるトリアージと初期治療の判断ができ、子どもの早期症状緩和と1次救急受診の母親への育児等の予防を含めた指導

6

(日本看護協会資料：皮膚・排泄ケア)

活動領域と対象

| | |
|------|--|
| 活動領域 | <ul style="list-style-type: none">• 急性期から亜急性期病院の病棟• 創傷に関連する外来等• 在宅領域への拡大も視野に |
| 対象 | <ul style="list-style-type: none">• 慢性創傷患者• 褥瘡 下肢潰瘍 離開創• ストーマ造設術後創 |

17

○看護と診療をつなぐ非常に重要な位置づけの職種として、例えば救急のトリアージのように、ケアと医療の間をきちんとつなぐ人たちが増えると、国民にも、救急医療を担う医師にも有益である。

○救急外来のトリアージにおいて、ある程度判断できる看護師が配置されて、医師と看護師が協働することにより、更に患者の満足度は高まる。

○血液がんの患者などは、強力な治療を受けていて、様々な有害事象の発生やそれに伴う要求も多い。包括的指示の下で、有害事象に対する判断や個別性を重視した対応ができる特定看護師(仮称)がいると患者も医師も看護師も助かる。

○小児患者の社会生活をサポートしながら医療を行う特定看護師(仮称)の業務や、褥瘡処置、あるいは初期の薬剤使用についても、地域の訪問看護におけるニーズは非常に高いのではないかと。

2. 特定看護師（仮称）に必要な能力

（東京医療保健大学大学院資料）

クリティカル領域における特定看護師(仮称)に必要な高度看護実践能力

【状況を総合的に判断
(診察・包括的健康アセスメント)できる能力】

【状況に対応した治療を実践できる能力】
【医療従事者との協働・ネットワーク推進能力】
【倫理的意思決定能力】
【トップマネジメント能力】
【研究開発能力】
【クリティカル領域における看護実践能力】

12

【状況を総合的に判断
(診察・包括的健康アセスメント)できる能力】

救急患者、周術期患者、ハイリスク患者等に、

1) 全身を限なく、五感を駆使して診る
フィジカルアセスメント能力

2) その上で患者に検査が必要か否かを判断し、必要と判断した場合は医師との協働のもとに、血液検査やX線撮影等の検査のオーダーをし、実施

3) その検査結果を解釈し、**患者の健康状態を判断する能力**

13

【状況に対応した治療を実践できる能力】

救急患者、周術期患者、ハイリスク患者等に、

1) 診断に基づき、健康回復のための必要な治療の判断とその実施できる能力

① 創傷関係の医療処置
② 呼吸状態改善に向けた医療処置
③ 一定の範囲の薬剤について薬物の種類と量の選択など

14

【医療従事者との協働・ネットワーク推進能力】

各職種の役割・機能を認識し、患者のニーズに向かって連携し、協力し合い、特定看護師(仮称)として患者の医療を支えていく能力

特にクリティカル領域は、患者の救命にかかわるために迅速な診断と治療が必要であり、特定看護師(仮称)は医師と互いに信頼しあい認め合う中で、患者の治療計画について意見を交わし合意をしていくことが重要である。

自分が対応できる範囲を見極め、必要であれば適宜医師に相談、確認する態度が不可欠

15

（大阪府立大学大学院資料）

がん看護領域の特定看護師(仮称)に求められる能力

| | | |
|---------------------------|---------------------------------|---------------------|
| 他専門職と同等の知的能力 知識を獲得する能力 | 情報収集能力 | アセスメント能力 問題の分析力 |
| 卓越したケア 実践能力 | 倫理的問題に 気づく能力 | 倫理的問題を 調整・解決する能力 |
| 保健医療福祉の 人々への調整 | 独自の役割を獲得・ 実行する能力 交渉力 | 企画する能力 |
| 変革する能力 | コミュニケーション能力 対等な立場で 議論する能力 | |

13

（大分県立看護科学大学大学院資料）

必要とされる能力

- 包括的な健康アセスメント能力(簡単な検査を含む)
- 医療的処置マネジメントの実践能力(簡単な薬剤の選択・使用等を含む)
- 熟練した看護実践能力
- 看護管理能力
- チームワーク・協働能力
- 医療・保健・福祉システムの活用・開発能力
- 倫理的意思決定能力 **【とくに強化が必要な基礎的能力】**

3つのP

Physical Assessment
Pharmacology
Pathophysiology

16